

グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第97号 2023年8月28日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

Bangladesh に福音を

吉田成就



ジョシュアプロジェクトは、世界に存在する約2万の民族グループの宣教状況を追跡して様々なデータを出しています。Bangladesh は、世界で最も福音宣教が進んでいない国の一つです。この国はイスラムの教えに国を挙げて従っており、キリストの教えを拒む要因がたくさんあります。信仰の自由が保障されている日本はというと、実は未伝部族として第2位にリストアップされています。何故なら、キリスト教人口5%以下、福音派2%以下の国はまだ福音が伝わっていないと認定されるからです。

では、日本人がBangladesh にどうアプローチできるか。今回の訪問によって「日本」という国がBangladesh 宣教の鍵になるということが分かりました。

Bangladesh に福音を 吉田成就	1-3
どこに行くかやない、誰が一緒にいるかや! 吉田宣教	4
吉田恵利子絵画個展 ~風のしらべX~ 吉田恵利子	5
グレート・コミッションを読んで 関 誠	6
感謝とご報告・祈りの課題	6



ホーム・オブ・ピースの歓迎

今回のバングラディッシュ訪問で、多くの村々を回り福音宣教の機会が与えられました。宣教旅行の前半は、HOP（ホーム・オブ・ピース）というクリスチャンが運営しているNPOを拠点に活動させていただきました。

このHOPは、孤児や片親の子どもを積極的に引き受けて教育をしている学校です。600人近い子どもたちがここで学び健やかに過ごしていました。キラキラと眩しい笑顔、また歌とダンスで出迎えてくれました。ここに集まってくる子どもたちはイスラム、ヒンドゥ、仏教、様々な背景からやってきます。もちろん、NPO法人なので彼らの信条・自主性を尊重し、キリスト教を強要しません。職員の中にはイスラムの方がおられるので徹底されています。それにもかかわらず、子どもたちのほとんどは在学中にイエス様を受け入れるそうです。HOP責任者のアルバート氏は「自分の願いは、多くの背景・宗教を持つ子どもたちがキリストを信じ、自分の村へと帰り、村を助け、キリストを伝えることだ」と語っていました。

近隣の村伝道

私たちは、HOPを拠点に近隣の村伝道へと向かいました。近隣と言ってもどこも車で数時間掛かります。数日かけて六つの村を訪問させて頂くことができました。どこの村でもそれぞれの民族・部族の伝統的な歌や踊りで歓迎してくれました。2箇所、私たちは椅子に座り、桶の水で足を洗ってから油を塗ってくれる民族もありました。これは、彼らの最上級のもて

なしです。「嬉しいけど、勿体ない」というのが私の感想でした。ヨハネの福音書で、マリアがイエス様にナルドの香油でその御足をふいた状況はこのようなものだったのかと体験すると同時に、もてなしの心、そして脈々と受け継がれる文化に感動しました。

最初に訪れた村は、68家族がイエス様を信じていました。そして何と380人がクリスチャンです。その時には、その村のノンクリスチャンの方も集会に参加してくれました。しかし、この村には教会堂がありませんでした。集会は外の広場で行われました。普段の礼拝もそうです。夏の日差しが照りつける時も、冬の寒さが堪える時も野外礼拝をしています。貧しい村なので、会堂が建てられない現実があります。日本で、教会堂を建てようとするのと安くても数千万円掛かると思います。しかし、この村に教会堂を建てるには300万円あれば足りるそうです。是非、この村の為に覚えてお祈り頂けると幸いです。

その他の村でも、集会が開かれました。私はすべての村で日本語の特別賛美をしました。そして、父（吉田隆宣教師）がメッセージを語りました。その時に歌詞の意味を説明すると共に伝道の機会が与えられました。熱心なイスラム教徒の村にも訪問しましたが、賛美を歌っていると、通りすがりの村人たちも集まってきました。このように宗教の壁を超えて日本の賛美が用いられることに驚きました。

クリスチャンが多くいる村や、ほとんどがイスラム教徒の村など、様々な場所で集会をしました。何故、これらの村との繋がりがあるのかというと、以前からその場所に伝道がされていたというのがありますが、HOPで信仰を持った子どもたちが卒業し、職業を



神学校開所式

持ってそれらの村に帰っているからです。HOPの卒業生からはお医者さんや政府の役人、警察庁の高官など有能な人材が多く輩出されています。キリストを受け入れた彼らのうちのある人たちは、村に帰って伝道し、またある人たちは国を変えようとしています。蒔かれた種がいよいよ刈り取られる。そのような期待を感じました。

新しい神学校献堂式

さて、宣教旅行の後半に私たちはHOPとアルバート氏に別れを告げ、他の国の宣教師たちと合流しました。現地の教会のリーダーたちにメッセージを語り、トレーニングをする時間がメインでした。案内役をされた現地の牧師と、マレーシアの牧師二人、そしてオーストラリアから来た預言の賜物を持つ牧師と、癒しの賜物を持つ長老とで行動を共にしました。

まず私たちは、新しく作られた神学校の献堂式へとやってきました。驚くことに、その神学校の二階部分は柱だけの吹き抜け状態でした。本当は、二階建てで設計され、工事も進められていたのですが、途中レンガの値段が上がった為に予算不足で二階部分を断念して完成させたということです。日本では考えられない事ですが、その臨機応変さに感心しました。また、それだけ神学校の必要が迫っているということでもあります。この神学校が用いられるようにそして、工事再開のためにもお祈りください。

献堂式は二日間ありました。この集会でオーストラリアから来た、預言と癒しの賜物を持つ牧師と長老がメッセージと証を語りました。エリヤがエリシャに自分の霊を分けたように、二人も預言と癒しの賜物のレ

チャレンジ！バングラデシュ会堂建設プロジェクト



バングラデシュに会堂を建設しよう

1つの会堂の建設費は約300万円です。現地の教会の信徒は建設のために奉仕します。

教会・教団・個人でまとまったご献金（50万円以上の）をいただいた場合、会堂玄関に名前を刻んで現地の教会は名前を挙げてお祈りします。これは祈りによって神の国の相互関係を強めるプロジェクトです。

詳しい資料をご希望の方は、aojoffice@gmail.comまで、バングラデシュ会堂建設プロジェクトについてお問い合わせください。

クチャーをし、求める方々には油と接手をもって賜物を与えられるように祈る時間がありました。私も、その人々に混じって接手をしてもらいました。最後に、預言や癒しを求める方たちに預言したり、祈ったりする時間も与えられました。翌日の集会では、癒されたと報告する人たちが多数居て驚かされました。旅の途中で、私も個人的に二人から預言を語られました。様々なことが的中し、神様が豊かに働かれていると実感しました。他にも、イスラム教徒から改宗した教会のリーダーたちのトレーニングにも行き、盛りだくさんの宣教旅行でした。

日本人の宣教が受け入れられる！

さて、今回の宣教旅行を通しての私の正直な感想は、「バングラデシュはイスラム教国なのに迫害が少ないし、よく話を聞いてくれて素直な人が多い」ということでした。しかし、現地の牧師からこのように言われました。「バングラデシュの人々は現地の牧師の話は聞こうとしない。かと言って、白人の宣教師は歴史を通して警戒され、場合によっては迫害の危険がある。でも日本人はビジネスで来る人が多いし、日本に好感を持っている人も多いから、みんな話を聞きたがる。今回訪れた村で多くのイスラムが集会に参加し、話を聞いてくれたのは普通なことだ」日本人として、私たちがリーチできる人々がこの国に多くいます。経済的にも支えることができますが、是非現地に出向いてみてください。日本人というだけで話しかけて来る現地の人々がたくさんいます。バングラデシュのことを覚えてお祈りください。

「さて、この家にはいつまで住むだろうか」と兵庫県への引越しを終えたばかりの私は思いました。

2023年の3月から5月。私は大阪、奈良、兵庫と3カ所に移り住みました。前職の入社を機に住んだ大阪、KBI 3週間コースの間住んだ奈良、現職場近くの兵庫です。

❖ 天の父が見てくれている ~大阪~

大阪の前職では、誰も知らない、見ていないと思っても、天の父が見てくださっていることを実感することが多かったです。

配属された先のグループ長の誕生日が私と同じ日でした。部内に誕生日を祝う習慣は無かったのですが、私はきっとこんな風に祝ってもらえたらいいだろうな、というサプライズを準備していました。すると、当日、なんと私もサプライズで誕生日を祝われてしまったのです。

そして翌日、違う部署のおじさんが、私の机に来てスイーツをたくさんプレゼントしてくれました。

私「あ、ありがとうございます！」

おじさん「ん、いや。ええんや。それより、親に電話したんか？」

私「あ、してないですが、ラインはしました！」

おじさん「そうか。誕生日は…、親に感謝する日や…」

まるで御使用のようなおじさんでした。

これは一つの例ですが、業務でもそのようなことが多く、辛かったこともあります。最終的にたくさんの良い仲間が得られ、教会に来てくれた同僚もいて感謝です。



最終出勤日同フロアの人と

❖ 願い・福音を運ぶ者 ~奈良~

KBIの3週間コースにはずっと行ってみたいという気持ちがありました。「十字架の理解が深まるから、絶対3週間だけでも行った方がいい！」と聞いていたからです。しかし、日本で社会人となると、3週間連

続での休暇取得はほぼ不可能です。しかし、なんか方法ないかしら、と漠然と思いつつ願いを抱いていました。

1月に転職活動の面接が通過し始めた時、「行けるんちゃうん!？」と思い始めました。会社を辞める際には大抵1~2ヶ月の有休を消化することが通例です。ですので、有休消化期間を3週間コースの行われる4月にすることが出来れば、可能なのです。そして、無事現職の面接を通過し、内定を得ました。入社日の調整も快く応じていただき、KBIの3週間コースに入ることが出来ました。神様は心に抱いた願いを叶えてくださるのです。

KBIでは、十字架が完了形であり進行形である、ということを受け取りました。神の聖さに気づく度、自分の罪深さに気づき十字架が大きくなっていくことを確認しました。そして、この素晴らしい十字架の福音を運ぶ者として、世の中へ出て行きたいという思いを確かなものとした時間でした。



KBI 3週間コースを終えて

❖ 主がともにおられる ~兵庫へ~

最終的に現職へ入社するべきか迷った時、ヨセフの人生が心に浮かびました。ヨセフというと、最後にエジプトを治めているイメージが最初に来ます。しかし彼は祝福のある場所を求めて歩んだのだったのでしょうか。いえ、彼は商人に売られたり、監獄に入れられたり、決して喜ばしくない状況に置かれています。でも、どの場所でも『主が彼と共におられ』たので、彼の周りに祝福が及んだのでした。

同様に私も「どこへ行ったとしても祝福となることが出来る！」と不安が無くなり内定を受諾しました。

この兵庫の家もまたいつか引越すかもしれないし、はたまたずっと住むかもしれない。

でもどこに住んでいようと、どんな仕事をしていようと、主は共におられる、それが一番重要なことだと気づきました。

吉田恵利子絵画個展 ～風のしらべX～

吉田恵利子

5月23日(火)から28日(日)まで、京都市役所近くの画廊ギャリエ・ヤマシタで、「風のしらべX」を開催させていただきました。この期間は、幸い天候もほぼ守られ、コロナ禍も一段落して、大勢の方々が街に繰り出している様子でした。特に京都の中心部には外国からの観光客の方々が溢れていました。

皆様のお祈りとお支えによって、2009年から始まり「風のしらべ」の個展も、コロナ禍などで休みしなければならない年がございましたが、今回で第10回目を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

今回も、多くの方々が個展のために時間を割いてくださり、京都周辺からの方々と、遠くは関東、横須賀や北陸、三重、大阪、兵庫、尼崎などからも駆けつけてくださり大変励まされました。

フランス、スイス、フィンランド、日本の風景や人物を描いた36点ほどの絵画に加えて、イエス様のお誕生から十字架までの聖画も5点ほど展示させていただきましたが、いつもこの個展がお祈りに支えられて、神様のお働きの中で開催されていることを実感します。

作品を通して神様の癒やしを体験されるとおっしゃってくださる方々のお証を聞かせていただいたり、お越しくくださる方々が、曜日や時間を打ち合わせていらっしゃるのではないにもかかわらず、丁度引き合わされたかのように個展会場でお出会いになったりと、神様の素晴らしいお働きを目の当たりにさせていただきました。中には「よく名前を覚えてくださった!」と10年ぶりの感動の再会の場面に立ち会うこともできました。通りがかりで来場してくださった未信者の方々も、イエス様のことを知ることができたとおっしゃってくださり、伝道の機会となりました。

あるクリスチャンの方は「カナの婚礼」の絵の前に

立って「この中で一番恵まれた人は誰だと思いますか?」と私に尋ねました。私が「それは水を汲んだしもべだと思いますよ。しもべは、ぶどう酒に変化したものを飲む機会はなかったでしょうが、苦勞して水を汲み、イエス様の奇蹟を目の当たりにしたのですからね。イエス様のことばに従う私たちの奉仕も……」すると、その女性の方は、感動して絵の前で涙を流されました。きっと主が働いてくださって、心に触れるものがあったのでしょう。神様からの励ましと力を頂きましたとおっしゃっていました。

個展の準備や絵を描くことに、時折プレッシャーで押しつぶされるように感じてしまうこともありますが、神様が働いてくださる奇蹟の場面を見せていただく度に、私自身が感動し、励まされています。

日頃からお祈りくださる皆様のお支えによってこの個展が開催できていることに、本当に心から感謝致します。

今回お買い上げいただいた絵画の収益から、カンボジアのミキホームの恵まれない子どもたちの働きのために献金させていただきました。

今年も10月に南大阪福音教会で、11月には大津楽心庵でクリスマスの個展があり、来年3月には風のしらべXIを計画しております。伝道のために主が用いてくださるようにお祈りいただければ幸いです。



吉田恵利子 クリスマス in October

2023年 10月19日(木)～10月22日(日) 南大阪福音教会教育館1F

吉田恵利子 クリスマス個展 IV

2023年 11月25日(土)～12月10日(日) 11時～17時 (金曜日はお休み)

ミニコンサート 11月30日(木) & 12月7日(木)

ギャラリー **楽心庵** & Café IORI

〒520-0113 滋賀県大津市坂本6丁目26-45 TEL 077-548-8554



思い出

吉田先生・恵利子先生とお出会いして24年になりました。

お出会いの中で一番の思い出は、初めてのモンゴル宣教旅行です。まだ、共産主義から解放されて間もないモンゴル、宗教活動が制限されている中で、ある地方都市にリバイバルが起きました。リバイバルの原因は、地方都市の有名な拝み屋さんに、夢の中でイエス・キリストが現れて、救い主として信じ受け入れたのです。まだ、

医療が行き届いていないところでは、何かが起こると、民衆は拝み屋さんのところに来ます。とても影響力のあるシャーマンです。この方が救われたので、村中の人々が芋づるのように救われたのでした。リバイバルの元はイエス・キリスト御自身でした。

イエス・キリストに遣わされている先生がたの上に、



霊と心と体、全ての領域に主の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

京都グレースバイブルチャーチ
牧師 関 誠

感謝とご報告

- 吉田隆宣教師と三男の成就兄は、3月11日から23日までバングラデシュで奉仕をさせていただきました。報告は本号1～3ページをご覧ください。
- 吉田隆宣教師と恵利子宣教師は、6月中旬からフランスのパリプロテスタント日本語教会で3週間の働きをさせていただきました。
- 吉田隆宣教師と恵利子宣教師は、7月中旬に英国・スコットランドを訪問。その後、摂理姉家族の住むスイス・チューリヒに行き、アガペ・クリスチャンセンターで奉仕をさせていただきました。
- 吉田宣教師家族は、8月下旬に家族賛美のCD制作のために録音を行いました。

祈りの課題 (以下の祈り課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田隆宣教師と恵利子宣教師は、9月8日から18日まで、宣教会議の出席と現地での伝道の働きのためにロス・アンジェルスにまいります。
- 吉田恵利子宣教師は、10月19日から22日まで、伝道の目的で南大阪福音教会・教育館でクリスマス in October の展覧会を開催します。開催期間中に伝道のためのコンサートも行われる予定です。

- 吉田恵利子宣教師は、11月25日から12月10日まで、伝道の目的でクリスマス個展Ⅳを大津市坂本のギャラリー楽心庵で開催します。開催期間中に伝道のためのコンサートも行われる予定です。
- 吉田ファミリーが霊的な戦いから守られ、病気や事故や怪我から守られますように。それぞれの健康が支えられますように。

吉田隆師・恵利子師 聖地旅行のために

吉田隆宣教師と吉田恵利子宣教師は、各国を巡って宣教の働きを続けていますが、未だ聖地イスラエルに旅行したことがありません。そこでそのための献金をお願いしたことがございました。しかしコロナ禍が続き、旅行がむずかしい状況がここ3年続いてまいりました。グレイト・コミッションとしては、2024年あるいは2025年にイスラエル旅行を実現したいと考えております。予算は80万円(2人分)で、現在までその名目でお送りいただいたご献金の総額は124,000円です。2024年は二人の宣教が香港で開始されてから30周年、また結婚40周年に当たります。このためにご献金くださる方は、振替用紙にその旨お書き添えくだされば幸いです。

